

# 札幌医科大学における三つのポリシー（方針）

改正 令和6年4月1日  
※専攻科抜粋

---

## 専攻科の三つのポリシー（方針）

---

### 【公衆衛生看護学専攻】

#### ディプロマ・ポリシー（修了証書授与方針）

公衆衛生看護学専攻は、地域保健を担う保健師に求められる専門性と実践力を兼ね備え、所定の単位を修得した学生に保健師国家試験受験資格を付与するとともに、修了証書を授与します。

1. 地域に存在する健康課題を明確化し、事業計画を立案して組織的に解決するための公衆衛生看護学、及び関連分野の知識・技術を身につけている。
2. 豊かなソーシャルキャピタルの醸成を目指して、地域に出向き、地域に根差した実践を展開するための基礎的な能力を身につけている。
3. 地域の健康課題を解決するための社会資源の開発やシステム化、施策化に参画する能力を身につけている。
4. 地域住民、関係機関、多職種の人々と信頼関係を築き、連携・協働する能力を身につけている。
5. 保健師としての役割と責任を認識し、高い倫理観をもって実践する能力を身につけている。
6. 地域住民の健康の保持・増進、地域社会の安寧、公衆衛生看護の充実と発展のために、生涯にわたって研鑽する意欲と自己学習力を身につけている。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

公衆衛生看護学専攻は、修了証書授与方針に掲げた能力を有する人材を育成するために、以下のよう

- に教育課程を編成し、実施します。
1. 教育課程は、「専門領域」「関連領域」「臨地実習」で編成する。
    - 1) 専門領域では、公衆衛生看護の目的・対象、保健師の役割や専門職としての責務や倫理を学ぶ。加えて、公衆衛生看護の対象である個人／家族、地区／小地域、地域のアセスメント、地域社会がかかえる健康課題の解決に必要な知識・技術を学ぶ。
    - 2) 関連領域では、疫学や保健統計、保健福祉行政等の専門分野を支える知識を学ぶとともに、人々の健康に深く関わる環境や社会の多様性に対応するためのコミュニケーションスキル、将来の保健師としてのキャリアデザインについて学ぶ。
    - 3) 臨地実習では、行政・学校・産業・地域において、学内で学んだ知識と技術と統合し、公衆衛生看護の実践能力の向上をはかる。
  2. 公衆衛生看護学、及び看護実践に必要な知識と技術の修得レベルを高めるため、事前準備と事後展開を含む質・量の伴う学修過程を展開する。
  3. 少人数グループでの能動的学修を積極的にとり入れるとともに、個別状況に応じた学修支援を行うことにより、学生個々が高水準の知識・技術を修得できる教育環境のもとにカリキュラムを展開する。
  4. 将来の保健師としてのキャリアプランを具体化するため、行政・学校・産業の場で活躍する現職保健師との交流や地域等におけるインターンシップなど、キャリアイメージを高め、職業アイデンティティの形成を促す機会を設定する。

### 【助産学専攻】

#### ディプロマ・ポリシー（修了証書授与方針）

助産学専攻は、地域の母子保健・周産期医療を担う助産師に求められる専門性と実践力を兼ね備え、所定の単位を修得した学生に助産師国家試験受験資格を付与するとともに、修了証書を授与します。

1. 妊娠・出産・産褥の過程において正常経過の判断と異常を早期に発見するための助産学及び関連分野の知識・技術を実践に活用する能力を身につけている。
2. 妊娠・出産・産褥の過程において正常経過をたどる女性と子ども、家族の状況に即した助産ケアを的確に実施できる基礎的な能力を身につけている。
3. 妊娠・出産・産褥においてハイリスクな状態にある女性や子どもの経過判断を的確に行い、必要なケアを実施する能力を身につけている。
4. 助産実践の対象となる全ての女性、とりわけ妊娠・出産・産褥の過程における女性や家族と信頼関係を築き、発展させる能力を身につけている。
5. 助産実践の充実と発展のために助産師チームの連帯性を高めるとともに、保健医療チームにおいて他の保健医療関係者と連携・協働する能力を身につけている。
6. 地域の母子保健・周産期医療を取り巻く諸課題に向き合い、それらの充実と発展を志向し、行動する能力を身につけている。
7. 助産師としてのプロフェッショナルリズムを高め、研鑽し続ける能力を身につけている。

### **カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）**

助産学専攻は、修了証書授与方針に掲げた能力を有する人材を育成するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。

1. 教育課程は、「助産学の基礎領域」「助産学の実践領域」「助産学の関連領域」で編成する。
  - 1) 助産学の基礎領域では、助産の目的・対象、助産実践の基盤となる周産期医学や胎児・新生児学の知識に加え、性と生殖に係わる健康支援者としての役割、専門職としての責務と倫理を学修する。
  - 2) 助産学の実践領域では、さまざまな健康レベルにある妊産褥婦と新生児に対するアセスメント、出産に向けた身体的準備性と回復力を高める助産ケアの基本、多様な施設における助産管理の実際を学ぶ。実習では、自らの助産活動を通して知識と技術を統合し、実践能力を高める。
  - 3) 助産学の関連領域では、子育て中の女性と家族に対する支援、地域における母子保健の課題を解決するための助産師の役割について学ぶ。加えて、最新の知見をもとに助産実践に対する洞察を深め、効果的なケアを創造する能力を養う。
2. 助産学及び助産実践に必要な知識と技術の修得レベルを高めるため、事前準備と事後展開を含む質・量の伴う学修過程を展開する。
3. 少人数グループでの能動的学修を多くとり入れるとともに、個別指導による学修支援を充実させ、学生個々が高水準の知識・技術を修得できる教育環境のもとにカリキュラムを展開する。
4. 将来の助産師としてのキャリアプランを具現化するため、周産期母子医療センター、病院、助産所及び地域で活躍する現職助産師と交流し、キャリアイメージを高め、職業アイデンティティの形成を促す機会を設定する。

### **【専攻科共通】**

#### **アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）**

#### **求める学生像**

札幌医科大学専攻科は、北海道の保健・医療・福祉に貢献する、高度な知識と優れた技術を備えた創造性に富む人間性豊かな保健師・助産師を育成することを目的としています。そのため次に掲げるポリシーにより学生を求めます。

#### **【知識・技能】**

1. 公衆衛生看護学、もしくは助産学の基盤となる看護学の基礎・基本を高いレベルで修得している人

#### **【思考力・判断力・表現力等の能力】**

2. 北海道の保健・医療・福祉に深い興味・関心を有し、保健師もしくは助産師として地域に貢献したいと考えている人
3. 看護上の諸課題の解決に必要な実践力を有している人

【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】

4. 多様な価値を尊重し、高い倫理観を持って行動する姿勢を有している人
5. 看護職としての役割を認識し、専門職としてのキャリアデザインを描いている人

入学までに学習しておくことが期待される内容

1. 看護実践に関する基礎・基本の知識と技術を統合する能力
2. 看護の対象者の健康上の課題を明らかにし、論理的・科学的思考によって解決する基本的能力
3. 看護の対象者や協働する人々と良好な対人関係を築き、連携・協調する能力
4. 看護職としての役割と責任を認識し、高い倫理観をもって実践する基本的能力
5. 看護職としてのキャリアビジョンを有し、自己研鑽を継続する姿勢

入学者選抜の基本方針

入学者に求める資質・能力について、下表に示す入学者選抜方法により評価・判定します。

※○及び◎は入学者選抜方法と学力の3要素との対応関係を示すものであり、配点の比重を示すものではありません。

入試区分	入学者選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力等の能力	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度
一般入試 (公) (助)	看護学一般	◎	◎	
	面接		◎	○
	入学願書		◎	○
	成績証明書	○		
	志望理由書		◎	◎
学内推薦入試 (公)	看護学一般	○	○	
	面接		◎	○
	入学願書		◎	○
	志望理由書		◎	◎
	推薦書			◎
社会人入試 (公)	看護学一般	○	○	
	面接		◎	○
	入学願書		◎	○
	成績証明書	◎		
	志望理由書		◎	◎
地域社会人特 別推薦入試 (助)	看護学一般	○	○	
	面接		◎	○
	入学願書		◎	○
	成績証明書	◎		
	志望理由書		◎	◎
	推薦書			◎

(公) 公衆衛生看護学専攻

(助) 助産学専攻